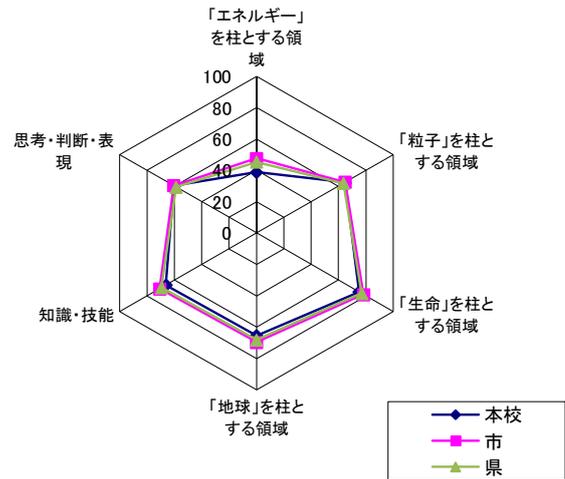


宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

○白 題に 題を	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	39.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	64.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.1	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	65.5	69.5	68.1
観点	知識・技能	66.3	70.8	69.5
	思考・判断・表現	60.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>●平均正答率は39.0%で、県の平均を6.3ポイント下回った。</p> <p>○「電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測することができる。」の正答率は、55.1%で県平均を0.7ポイント上回った。</p> <p>●「乾電池のつなぎ方とその名称を理解している。」の正答率は41.6%で県平均を16.3ポイント下回った。</p>	<p>・実験や日常生活の中で経験した知識や技能については定着している。体感したことをもとに、分かったことを書いたり、話したりする活動の充実を図ることで正しい用語を用いて、説明する力を高められるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は64.8%で、県の平均を1.2ポイント上回った。</p> <p>○「金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化を理解している。」の正答率は、75.3%で県平均を5.9ポイント上回った。</p> <p>●「水と空気をあたためたときの体積の変化を理解している。」の正答率は51.7%で県平均を5.8ポイント下回った。</p>	<p>・個別の実験結果に関する知識と技能は身につけている。異なる実験結果を比べて答えたり、実験で分かったことを活用して説明したりすることに課題が見られた。一つの問題を何度もやり直したり、様々な練習問題に取り組んだりすることで、多様な問題に、適切に答えらるよう指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>●平均正答率は75.1%で、県の平均を1.7ポイント下回った。</p> <p>○「季節の変化とかえるの様子を関係付けることができる」の正答率は、85.4%で県平均を2.5ポイント、「季節によって気温や動物の様子が違うことを理解している」の正答率は83.2%で県平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>●「関節について理解している。」の正答率は78.7%で県平均を8.8ポイント下回った。</p>	<p>・身近にある動物や植物についての知識は身につけている。今後は、映像資料や工夫した具体物を活用し、目に見えにくい人体の構造や自然事象への理解を深められるよう授業を展開していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>●平均正答率は65.5%で、県の平均を2.6ポイント下回った。</p> <p>○「天気と気温の変化のようすの関係を理解しているかどうか。」の正答率は、70.8%で、県平均を6.2ポイント上回った。</p> <p>●「月の動き方と動く向きを理解しているかどうか。」の正答率は47.2%で県平均を23.4ポイント下回った。</p>	<p>・「天気と気温の変化の様子」や「水のすがた」など、校内で実験や観察した単元の知識・技能は定着している。「月や星の動き」など、授業以外での観察も必要な単元では、家庭と連携し天体観測等の体験を増やすことで、星の動きについての理解を深められるようにしていく。</p>